

映画「Workers 被災地に起つ」上映から1年を迎えて

- ◎藤田 徹 映画「Workers 被災地に起つ」 上映運動の更なる飛躍を-上映運動1年を振り返って-
- ◎酒見 友樹 映画「Workers 被災地に起つ」 上映運動を生活(暮らし)の中に-上映1年を迎えて-
- ◎小澤 真 映画「Workers 被災地に起つ」 上映運動から得られたもの
- ◎中井 康裕 上映運動を振り返って
- ◎池田 道明 映画「Workers 被災地に起つ」 上映一周年を迎えて
- ◎竹森 幸太 映画「Workers 被災地に起つ」 の上映活動が私たちに与えてくれたもの
- ◎東梅 麻奈美 地域の中のねまれや
- ◎中山 和郎×藤田 徹×相良 孝雄

ドキュメンタリー映画が持つ可能性と映画「Workers 被災地に起つ」から感じること 座談会

■巻頭言 森 康行 「Workers 被災地に起つ」上映一周年に想う

■海外レポート 田中 夏子

コミュニティ協同組合を考える①

イタリアの社会的協同組合及びコミュニティ協同組合における一般利益(l'interesse generale)とは何か
～協同組合「第7原則」との関連を踏まえて～

■協同の広場 馬場 幹夫 社会連帯TOKYO設立までの道のり

■会員だより 中西 大輔 「協同労働」が問いかける「自治」

Workers 被災地に起つ

協同の発見

第323号 2019.10

特集 映画「Workers 被災地に起つ」上映から1年を迎えて

目次

■巻頭言

- 「Workers 被災地に起つ」上映一周年に想う 2
森 康行(映画「Workers 被災地に起つ」監督)

■特集 映画「Workers 被災地に起つ」上映から1年を迎えて

- ・特集にあたって 4
相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)
- ・映画「Workers 被災地に起つ」上映運動の更なる飛躍を－上映運動1年を振り返って－ 6
藤田 徹(映画「Workers 被災地に起つ」プロデューサー/日本社会連帯機構専務理事)
- ・映画『Workers 被災地に起つ』上映運動を生活(暮らし)の中に－上映1年を迎えて－ 15
酒見 友樹(日本社会連帯機構 映画「Workers被災地に起つ」全国上映実行委員会事務局/会員)
- ・映画「Workers 被災地に起つ」上映運動から得られたもの 22
小澤 真(センター事業団東北事業本部事務局長/映画東北担当プロデューサー/会員)
- ・上映運動を振り返って 28
中井 康裕(センター事業団 奈良エリアマネージャー)
- ・映画「Workers 被災地に起つ」上映一周年を迎えて 36
池田 道明(センター事業団東北事業本部 副本部長)
- ・映画「Workers被災地に起つ」の上映活動が私たちに与えてくれたもの 41
竹森 幸太(センター事業団東北事業本部登米地域福祉事業所所長/会員)
- ・地域の中のねまれや 43
東梅 麻奈美(センター事業団大槌地域福祉事業所所長)
- ・ドキュメンタリー映画が持つ可能性と映画「Workers 被災地に起つ」から感じること 座談会 46
中山 和郎(浦安ドキュメンタリーオフィス代表)
× 藤田 徹(日本社会連帯機構専務理事/映画「Workers 被災地に起つ」プロデューサー)
× 相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)

■海外レポート

コミュニティ協同組合を考える①

イタリアの社会的協同組合及びコミュニティ協同組合における一般利益(l'interesse generale)とは何か

- ～協同組合「第7原則」との関連を踏まえて～ 62
田中 夏子(農園Vento e Terra(風と土)園主/協同総研理事)

■協同の広場

- 社会連帯TOKYO設立までの道のり 72
馬場 幹夫(センター事業団東京統括本部本部長/センター事業団専務補佐)

■会員だより

- 「協同労働」が問いかける「自治」 88
中西 大輔(滋賀自治研究センター/協同総研理事)

- 労協連だより 高成田 健 93

- 研究所だより 岩城 由紀子 95

巻頭言

「Workers 被災地に起つ」 上映一周年に想う

森 康行（映画監督）

2011年3月11日に起こった東日本大震災による被害と被災地の方々に対して、何かできることはないだろうか、どうしたら被災地の方々に寄り添うことが出来るのだろうかと日本中の誰もが考えたことだろうと思います。

被災した人たちは… 数多くの命を落とされた方々、生き延びることで精いっぱいだった人たちが、働く場所も家も生活の糧も何もかも失った人たちです。驚天動地の時が過ぎ、目の前に広がる無残な光景を見て、その人たちはこれからどのように生きていったらよいのかときっと思ったことでしょう。

復興という言葉がよく使われました。東北の被災地には数多くのボランティアの方々が入りました。瓦礫の片づけ、コミュニティを新しくつくるために奮闘しました。しかし、復興には長い時間がかかります。いつまでもその地にとどまって支援を行っていくことは困難なことです。

支援はもちろん大切なことです。しかし、そこをふるさとにし、住み続けていこうとしている人たちが自らの手で自らの地を創っていく、これがもっとも大切なことであるのは言うまでも

ありません。東北の被災地で事業を立ち上げ、“被災者自らの力で仕事と地域を起こす”ことをサポートするのがワーカーズコープの理念であり、実践です。

このことは私にあることを思い出させました。それは以前一緒に仕事をしたことがあるアンコールワットの研究家、石澤良昭上智大学元学長のことです。

石澤良昭先生は、1961年からフランス隊に参加し、アンコールワットの研究を続けてきました。今日では世界の遺跡として連日世界各国からの観光客が絶えないアンコールワット遺跡群ですが、当時は誰一人として訪れる人もなく密林の中に埋もれ、ほったらかしにされ遺跡全体が大きく痛んでいました。

ベトナム戦争、そして1975年から続いたカンボジアのポルポト政権下での破壊によって、遺跡の劣化は進んでいました。さらに、ポルポト時代には数多くの人々が殺されました。石澤先生と一緒にアンコールワットの修復や発掘を行っていたカンボジア人の同僚も多くが殺され、たった一人しかご存命ではありませんでした。

内戦が終わって平和になり、フラン

スやドイツ、イギリスが主導して遺跡の修復を始めようとしていました。その時に石澤先生は、それまで外国人の研究者が主導してきた遺跡の発掘・保存・修復作業ではなく、「カンボジア人自身が遺跡を守るべきである。いくら素晴らしい遺跡であっても、外国の人たちの手で行われたものではカンボジアの人たちの民族としての誇りも喜びも取り戻せない」と考えました。アンコールワットの発掘・保存・修復作業を「カンボジア人の手で」行うために、次の時代を担う若者たちを上智大学に留学させ研究者として養成していきました。そして現地に「アジア人材養成研究センター」を設立、さらに世界各国の研究者がサポートして遺跡を守っていく「アプサラ機構」が発足し、世界の至宝をカンボジア人の手で守っています。

私には、石澤先生の考えがワーカーズの考えと真底でつながっているように思えます。翻って「Workers 被災地に起つ」を考えてみましょう。この映画は、東日本大震災を切り口に、今私たちが抱えている現代のさまざまな課題を一緒に考えることを提起しています。

それは、職になかなか馴染めず安定

した生活を得られない若者たち。老後の保障が得られず、老後に希望を持っていない人たち。子育てに悩む若いお母さんたち。さらに、その悩みを共有するところを見つけることも出来ず、悶々としている人たち。映画にも出てくるように、押し寄せる過疎の波に翻弄され、あきらめている地域の人たち。東日本大震災の後、毎年大きな災害に見舞われ、未だに災害から立ち直れないでいる各地の人たち。さらに、日本を覆うさまざまな差別や偏見によって苦しめられている人たち、等々。

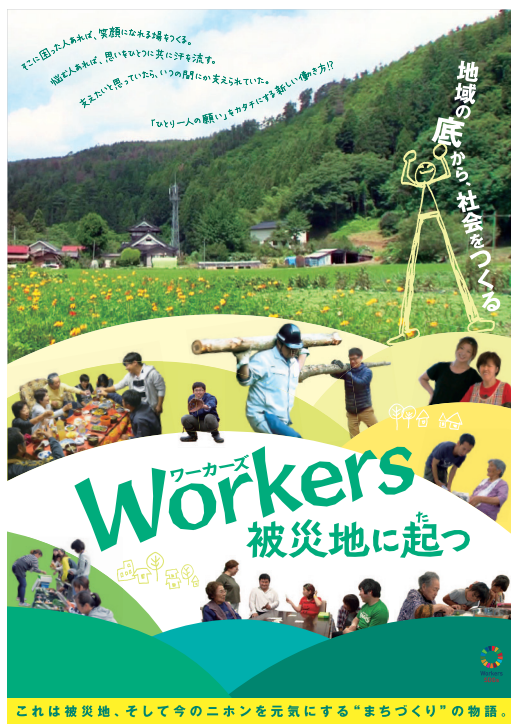
そのような課題に私たちはどのように向き合っていくのか。忘れようとしても忘れられない東日本大震災。そして、その後毎年襲ってくる災厄。

ワーカーズコープは被災者が自らの力でふるさとを取り戻し、そこで暮らして行くためのサポートをしてきました。震災からまだ8年、被災地の人たちとともに、その運動と事業は始まったばかりです。上映から一年、“これからどう生きるのか”。ワーカーズの取り組みとともにこの映画の真価が発揮されるのはこれからです。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合（ワークスコープ）への注目が増えています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の発見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。



●今月の表紙

全国各地で上映する映画『Workers 被災地に起つ』のチラシの一部。『地域の底から、社会をつくる』をイメージして、デザインしました。

所報 協同の発見 10月号(通巻 323号)

2019年10月15日(毎月1回15日発行)

編集・発行／一般社団法人 協同総合研究所

代表／古村 伸宏

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7F

Tel 03(6907)8033 Fax 03(6907)8034

Email kyodoken@jicr.org URL <http://jicr.org/>

郵便振替口座 00140-7-552949

定価 1,300円(本体 1,182円)